

2009 Report from **FD** Salon of RUCED

09-4

龍谷大学 FDサロンレポート

第4回FDサロン

FD活動への学生の参画を考える

—学生との意見交換—

日時 : 2009年9月29日 (火) 15:15 ~ 16:45
会場 : 深草学舎4号館 316教室

大学教育開発センター長
松本 和一郎

本年度も学友会中央執行委員会のメンバーとの懇談会を持ちました。始めに、昨年度の懇談会で予告のあった学友会のFD活動の状況を聞きました。新入生に対して履修ブースを開いたりアンケートを実施したりしたとの報告を聞き、教育現場の主役である学生がいよいよ動き出したかと心強く思いました。

続いては、学生諸君からの質問に答える形で話を進め、関連する話題に展開しました。話題は多岐にわたり、中には大学教育開発センターの活動範囲を超えるものもありましたが分かる範囲で答え、答えられない質問や要望については関係部署に引き継ぐように約束しました。いろいろな質疑がありましたが、学生諸君の積極的な姿勢が印象的でした。特に2点、レポートに残しておいた方がよいことがあります。第1はセンターの活動が学生にあまり伝わっていないという指摘です。従来、センターは教員の教育活動支援を行う、という見地から、教員にセンター News やセンター通信などを配布して活動の周知を図ってきました。しかし、学生に対するセンター

の活動の連絡や報告は不十分でした。先にも書きましたように、教育の現場の主役は学生ですから、学生にもセンターの活動の周知が図られなければならないことは当然です。学生も見られる形でHPに「大学教育開発センター」のページがあり、活動記録や事業内容が分かるようになっていますが、「見に来れば分かるようにしてある」だけではなく、節目でこちらから積極的に学生に働きかけるべきでしょう。たとえば、「学生による授業アンケート」においても、学生にその意義を説明し協力を求めるポスターを出す、とか、今回のFDサロンにも教員だけでなく学生の任意参加も募るポスターを出す、などちょっと考えてもいくつも思いつくことがあります。なるべく早く実現すべき課題として考えます。第2は、教学部がカバーすべき事項ですが、非常勤講師の先生に科目内容等の質問をしたく、連絡方法を教務課に聞いたけれど、「非常勤講師の先生にはオフィスアワーが設定されていません。メールアドレスなどは個人情報になりますから教えることはできません。」との回答で、何もできずに困った、という指摘です。非常勤講師でも専任教員と同格の指導ができなければ、教育の質の低下をきたします。もちろん、専任教員と全く同じにはでき

ませんが、同格の手だてがなければなりません。私が非常勤講師を務めている京都大学では、非常勤講師もオフィスアワーを設定するか代替措置を学生に明示するように、との依頼があります。私はオフィスアワーを設定する時間帯が取れないので、私の意志でメールアドレスを公開しています。メールで質問に答えたり、会って話した方が良くと判断した場合には面会時間の相談をしたりしています。非常勤講師本人が公開していれば、教務課がメールアドレスなどを教えることも問題なくなります。もちろん、どういう手だてを選ぶかは各非常勤講師の先生に任されますが、この件は教学部の方に検討をするよう依頼しておきました。この問題は単に非常勤講師のオフィスアワーという問題を越えて重要な意味があります。時として、事務職員は「規定」を金科玉条にしてしまいます。しかし、重要なのは「規定の目的」です。先ほどの学生の問いに対して教務課員は「個人情報教えられないけれど、現状には問題がありますから、教務会議に非常勤講師のオフィスアワーの設置か代替措置の検討を提案してみます。今しばらく時間がかかりますが、何か進展があったら連絡します。」と言って欲しかったです。教員が対応していたら百人が百人こう答えたと思います。事務職員にもこういう発言ができるようにするには、教員が何を考えているか、事務職員が何を考えているかを互いに出し合って交流を図り、相互理解を進める必要があります。これこそが昨今流行の「教職協働」のあるべき中身だと思います。

今のところ、龍谷大学では大学教育開発センターと学生との協働活動はありません。学生が教育現場の主役ですから、学生独自の教育改善活動の他にセンターとの協働活動も欲しいと思います。たとえば、現在の授業アンケートでは記入現場に先生が居てアンケートに正直に書きにくい、との声もありますから何らかの形で資格を認定された学生がアンケート記入の現場を預かる、とか、学生による「教育開発企画委員会」を立ち上げて知恵を出して貰うとか・・・。そもそも、協働活動として何を

すると良いかも学生諸君に考えて貰いたいです。

最後に、今回の懇談会に教員は私ただ一人の参加であったことが極めて残念です。せっかくの学生諸君の意見を多くの教員が生で聞いて欲しかったし、私と違う見解を持つ先生の声も学生に聞いて欲しかったです。来年こそはこの点の改善ができるように知恵を絞ります。また、学生諸君から当日に資料提出の希望が出ましたが、全ての資料を懇談会場に持っていくことはできません。事前に質問事項や希望する資料を連絡して貰ってあれば今回のように事務職員に何度もセンター事務室に走って貰うこともなくてすんだと思います。もちろん、事前に連絡していない質問を当日することは全く構いません。(少し回答の丁寧度が下がり、適切な資料が出せない可能性があります。) 当意即妙、というのもまた楽しい交流の場には必要ですから。

経営学部執行委員長

中村 公彦

先日は、懇談会に参加させていただきありがとうございました。学部学生会としても今後本格的に活動を始めるにあたり、FDセンターの取り組みを聞かせて頂いた事は非常に参考になりました。特に、岡山大学などで行われている、学生と大学が協調した活動についての情報を提供していただきありがとうございました。今後もしろいろとご指導をよろしくお願いします。本年度、学部学生会は新生を対象にした履修ブース、講演会、キャンパスアンケートを実施しました。履修ブースとは新生に対して、授業登録や学生生活の疑問、質問に答える事が目的です。今年度も数百人の新生が参加してくれました。キャンパスアンケートについては、学生による学生に対する学生生活の改善を目的としています。今回は学舎毎の問題点および一部の学部に関しては学部ごとの問題点を中心にアンケートを実施しました。今後違った視点でアンケートを実施し、データを集める事



でより立体的な把握が可能であると思います。さらに、双方の情報を交換することでより大学教育の向上につながると思います。その点からも現在は年1回ですが、回数を増やすことを検討していくことも大切であると思います。

法学部 犬飼 寛

今回のお話の中で最も印象に残ったことは龍谷大学では、各学部、教授の裁量で任される部分が多いということです。

そのため、新しい制度を導入するには非常に時間がかかるという問題点があることに疑問を感じました。確かに独創的な講義が可能という面においては裁量に委ねる

ことは非常に良いと思いますが、大学として統一することが難しいというのは問題ではないかと思います。

例えば、必修である『仏教の思想』など複数の教授による授業においても、評価方法どころか講義内容まで違うというのは不思議に思います。特に必修は大学として必ず卒業までに得るべき知識だと考えていたのですが、内容にあまりにも差があるとその意味をなさないと考えたからです。

これらの学生、大学の認識差を埋めたいと最も強く言えるのは実際に講義を受ける学生だけだと思うので、学生会としても学生が声を上げる場、そして大学の考えを学生に広める窓口として活動していけるよう努めたいと思います。

最後に、次回以降はより効率よく話し合えるよう、事前準備した上で参加させていただきたいと思います。

貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

理工学部執行委員長

大原 貴志

まず、龍谷大学は他大学と比べ、FDセンターの活動や存在が学生に知れ渡っていないと感じた。というのも、私自身、執行委員長に就くまでFDセンターが活動しているところか、存在も知らなかったからだ。今回、懇談会に参加して初めてFDセンターの活動意義みたいなものを知ることができた。

だから、龍谷大学の学生にFDセンターのことをもっとアピールし、学生がFDセンターに意見を言いやすい環境を作っていくことが、龍谷大学を「よりよい大学」にしていく第一歩だと思う。また、年度末などに一年間

の活動内容をまとめ、冊子などで配布、もしくはポスター等で掲示してみてもいいかもしれない。学生がFDセンターのことを知れば知るほど、学生にとってもセンターにとってもプラスになるだろうし、大学も変わりやすくなるだろう。

最後に、FDセンター側の人間も複数名で参加したほうが、懇談会はより充実したものになるだろうと感じた。そして、センター側と学生側で事前に議題を交換しておき、質問内容をあらかじめ考えてから懇談会を始めた方が効率よく進行できただろう。そこが今回の反省点ではないだろうか。次回開催する時には、事前に議題を交換し、もっと短時間で、より深い内容のことを話し合えればいいと思う。



深草キャンパス

FDサロンレポートとは

大学教育開発センターでは、教職員間の交流の場として、各種の教育活動の経験や意見が話し合えるように「FDサロン」を2002年10月から開催しています。

大学教育開発センターの運営に関わる教職員が、話題提供者をコーディネートし運営されています。話題提供者のお話に耳を傾け、お茶でも飲みながら自由に意見交換等が行える機会として定着してきました。しかし、開催時間や開催場所の問題から、参加ができないとの声も聞かれます。そのようなことから、FDサロンでの話題をもっと全学に還流させ、FDの取り組みを深めていくためにFDサロンレポートを発行することといたしました。

FDサロンレポート 09-4

発行日:2010年2月

発行:龍谷大学 大学教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

TEL. 075-645-2163 FAX. 075-645-2190

<http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>